

## 議題提案書

【 】協議事項

【●】報告事項

議題名： 人道支援に対する考え方（人道・開発・平和の連携等）：  
2019～20年に向けて【仮題】

### 【提案者氏名、所属】

氏名： 松田 康宏

所属： 国際協力局緊急人道支援課長

### 【議題提案の背景】

世界で人道支援を必要とする人は約1億3千万人に上り、難民・避難民の数は6850万人と第二次世界大戦後最悪を更新し続けている。一方で、支援に必要な資金250億ドルのうち110億ドルしか調達出来ておらず、資金ギャップは年々拡大の一途を辿っている。また、人道危機による社会の不安定化は、世界各地に影響を及ぼしており、人道危機はもはや局所的な問題ではなくグローバルな課題に変化している。

日本は、一人一人が恐怖と欠乏から自由になり、幸福と尊厳をもって生存する権利を追求できるよう「人間の安全保障」を外交政策の柱の一つとしてきた。人道支援の実践においては、人道危機の根本原因の解決に取り組むために、中長期的な問題解決を実現する開発協力と、紛争再発防止など平和構築を重視し、「人道・開発・平和の連携」（ネクサス）を推進してきた。

2019年～20年には、TICAD、グローバル難民フォーラム（難民グローバルコンパクトのフォローアップ会合）、オリンピック・パラリンピックなど様々な重要行事が控えている。その中で、人道支援についても、ネクサス等の考えの下、効果的な支援をアピールすることが重要。そのために、国、国際機関、市民社会、企業など社会全体で取り組むこと（Whole of Society Approach）が求められている。

### 【議題論点】（ODA政策協議会で報告・議論したい点）

上記の諸点を含む外務省の人道支援に対する考え方を述べた上で、下記の点を中心に NGO からコメントを頂ければ有意義と考える。

- 日本が人道・開発・平和の連携（ネクサス）等特徴ある支援を行う際の NGO の関与可能性（具体的な関与の方法）について
- 2019-20年の各種行事（TICAD、グローバル難民フォーラム、オリンピック）に向けて人道支援の観点から NGO と連携してアピールできること

以上